

戦争の記憶を消してはいけない！

—吉村昭、井出孫六、井上ひさしの場合—



よしむら - あきら (1927—2006)

1966年『星への旅』で太宰治賞受賞。同年『戦艦武蔵』を発表。長崎には取材で107回訪れ、『ふぉん・しいほととの娘』『長英逃亡』など多くの作品を残している。

いで - まごろく (1931—2020)

1974年『アトラス伝説』で直木賞受賞。1986年『終わりになき旅』で大佛次郎賞受賞。昭和史に関心が深く、長崎もたびたび訪れている。

いのうえ - ひさし (1934—2010)

1972年『手鎖心中』で直木賞受賞。1983年「こまつ座」創設。ヒロシマを描いた『父と暮せば』はフランス、ロシア、イギリス、アメリカなど世界各地で上演された。

講演内容

「戦争の記憶を消してはいけない！」は井出孫六の口ぐせだった。吉村昭は「私の戦争は、1941年8月10日23歳であった五兄敬吾が中国戦線で戦死したことから始まった」と記しているし、井上ひさしは反核運動を指導したイギリスの歴史家になって、「記憶せよ、抗議せよ、そして生き延びよ」を信条にしていた。1945年の敗戦時、吉村は18歳、井出は13歳、井上は10歳だった。彼らは戦争をどのように受け止めていたのか、どのようにその記憶を私たちに伝えようとしていたのか。そして戦争体験のない私たちは、どのようにすればその戦争の記憶を後世に伝えていくことができるのか。

講師

やまぐち あきお

山口昭男 岩波書店元代表取締役社長

編集者・評論家。日本ペンクラブ会員、日本ジャーナリスト会議代表委員、井上ひさし研究会会長、ふくい風花随筆文学賞実行委員会理事、檜の会理事。1949年東京生まれ。73年東京都立大学経済学部卒業。同年岩波書店に入社。入社後一貫して『世界』編集部に所属し、88年6月から96年3月まで編集長。2003年から13年まで代表取締役社長を務める。現在、中央経済社ホールディングス常勤監査役。著書に『辻井喬—堤清二 文化を創造する文学者』（共著、平凡社、2016年）、『メディア学の現在 新訂第2版』（共著、世界思想社、2015年）、『権力に恐れられる存在に』（東京社『総合ジャーナリズム研究』（145号、1993年）、『今声をあげなければ将来に悔いを残す』（『論座』2005年4月号）など多数。



令和6年7月27日(土) 13:30～15:00
郷土資料センター研修室にて開催

お申込みは
こちらから



お問い合わせ

長崎県立図書館 郷土資料センター 〒850-0007 長崎市立山1丁目1番51号 TEL:095-826-5257